

特別支援学校（聴覚障がい）ネットワーク構築事業

1 趣 旨

本事業は、視覚障がい、聴覚障がい、病弱・身体虚弱の3障がい種別の特別支援学校において、青森県、秋田県、岩手県の3県の広域連携により、専門性の向上を図り、地域における障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実に資するものです。岩手県は視覚障がいと聴覚障がいの3県広域連携に参加しており、その中で本校は「聴覚障がい」に参加しています。

2 事業の内容

- (1) 特別支援学校広域ネットワークのあり方を検討する会議の開催
- (2) 3県の教員が相互に参加する授業研究会及び研修会の開催

3 本事業の実施期間

平成25年度～27年度の3カ年行われ、今年度は最終年度となります。

4 平成26年度の本校における「小学部合同授業検討会」の取り組み

(1) 開催日時および内容

- 日 時：平成26年12月10日（水）
- 会 場：岩手県立一関清明支援学校 本校舎小学部
- 参加者：青森、秋田、岩手の3県から25名
- 助言者：根元 重勝先生（宮城県立支援学校 岩沼高等学園）
- 研究主題：「伝え合いを大切にしたかわりを目指して」
- 単元名：「おはなし きいて」
- 実施学年および教科：小学部1・2年 国語科・自立活動（合同）

(2) 研究授業の様子

4人の聴覚障がい児童が自分の「よんだほん」をテーマに、手話や指文字を活用して説明をしたり、相手の話を聞いて質問したり、活発なやりとりを行いました。「伝え合う」ためにはどんな話し方が大事なのか、相手のどこに注目すればよいのか、など、個々の児童の目標を設定し、授業が展開されました。



(3) 授業検討会

「話す」「聞く」のポイントの提示のしかた、授業の中で使う用語について、話し言葉や書き言葉で助詞を正しく使えるようにするための指導方法などについて検討がされました。また、各校からは普段の学習での課題や悩みについて出され、それらについても意見交換を行いました。最後に助言者の根本先生から「書き言葉でコミュニケーションできれば社会で困らない」そのためには、日本語の力をつけること。ツールとしての手話、指文字、書き言葉、表情、指さし、よく見る等の引き出しを作ってあげ、相手によってどの引き出しを使うかを選択し、使うようになることを目標にするとよいなど貴重なアドバイスをいただきました。

5 平成27年度の本校における事業

平成27年10月2日（金）に、本校を会場に小学部による合同授業検討会が実施されます。